向陽新聞
高知市塩屋崎町1−1−1
土佐中・高校新聞部
編集人　水田幹久子
発行人　福崎裕印
印刷　高知印刷

キャンペーン　新聞部文化祭テーマ

特集

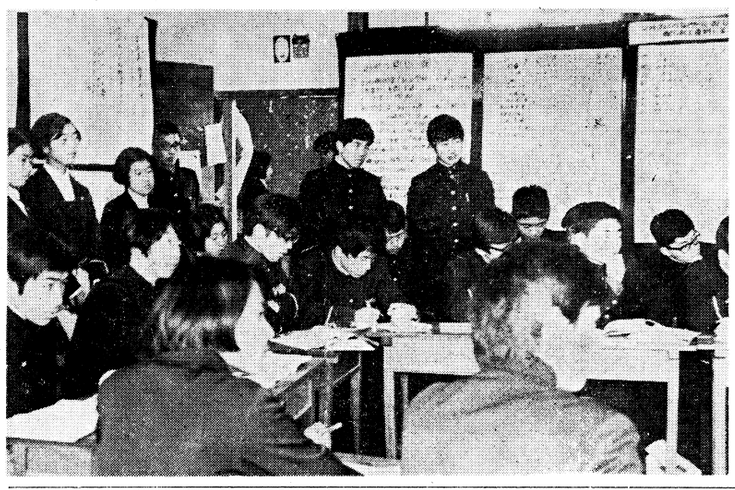
授業料値上げを斬る！

〝常に正しい〟校長の考え

自分の意見によって相手が変わり得るし、相手の意見によって、自分が変わり得る。このことが話し合いの前提であり、話し合うことの中の〝可能性〟である。しかし、討論会での校長の半ば威圧的な態度は〝常に正しくなければならない〟学校側の官僚主義的性格の一面を表わしていたとは言えないだろうか。以下に授業料問題についていままでの経過と展望について記してみた。

授業料値上げ問題を追って、新聞部の試みた文化祭討論会（第１日目）は完全な失敗に終ってしまった、という声を聞く。我々もそのことを認め、何回も反省を重ねなくてはならなかった。討論素材とした資料（小冊子「授業料値上げを斬る」）の中の不明確な点、討論会における非常な運営のまずさ等々新聞部の〝たよりなさ〟を痛感したのは新聞部員だけではなかろう。

しかし、このような反省の中から、問題点はそれまで以上に鮮明に浮き上がってきた。第一点にはやはり、学校側の根本的な姿勢、考え方に対する疑問があり、第二点には、国・県の新たな動き、そしてその背景一更に「教育費」の本来的な意味と、その中から具体的な展望をつかむこと……と、とにかくこ難しいのだけれど、我々がいったい何のために授業料問題に取り組み、何をめざすのか、もう一度、ここで、はっきりと確認しておく必要があるのではないか。



文化祭での新聞部展示場　第一日目に開かれた討論会で校長の説明に聞きいる生徒。討論会の出席者は先生方が五人。生徒は約三十人。

評議員会の空名化

まず、評議員会に焦点を合わせて考えてみよう。このことにふれなければならないか、と言えば、我々が「学校側は生徒、父兄に対し秘密主義をとっている」と批判したのに対し、「秘密にして当然であり、ちゃんと法律に基いて学校運営をやっているのだ」という校長の解答があったからである。即ち、学校側は法律的にも重大な誤りをちゃんと犯してきたのだということを我々はここで指摘しておかなくてはならない。

評議員会は私学において非常に重要な役割を果たす。一言で言えば、理事会を監督し、その横暴を抑制するために設けられたものだまた場合によっては評議員会が、議決機関ともなり得る（私学法第四一条）しかし、ここで、特に、注目すべきなのは、私学法第四六条（主張欄参照）及び第四二条の「評議員会は理事長から毎会計年度の決算の報告を受け、それについて意見を述べる」という法律的規定である。要するに、評議員会は理事会より、毎年、会計の決算の報告を受けて、それを調査することが職務であるわけだ。

ところが、本校における評議員会の実態は主張にも記されている通りであり、決算の報告が行なわれた記録は全く残っていない。「大島校長の時代から、評議員会は形骸化とも言えない状態が続いてきた」（西野先生）のである。

討論会に参加した人は、校長が「評議員会はあるのだ」ということと「何でもかんでも評議員会にかける必要はないのだ」という発言をくり返したことを想起することだろう。しかし、評議員会は会を開かなくてはあってもしかたがない。当り前のことである。何でもかんでも評議員会にかける必要はなくても（ただし、評議員会からの要請があれば理事会がすぐに応じなくてはならないのだが）会計の決算の報告は毎年行なわれなくてはならない。

秘密と不審

経理の公開についてはどうだろう。たとえ、公開しなくても、法律的にちゃんとやっていけるのだとしても、そのために、生徒や父兄、あるいは職員の間に、学校側（すべ）の中で、県下の校長をA、B、C段階に分け、Cのしかも極端に悪い例として、経理を公開しない校長を上げていた。私学だからと言って、関係ないでは済まされないという気がするのだが……。

百万前後に上った。しかし、国、県のこの新たな動きはいったい何を意味するのだろうか。本当に恐れなくてはならないことは何なのか。そして、その中から、正に、逆説的に、一つの展望をつかむことはできないものか。

展望

学校よ立ち上がれ

大幅な公害助成の獲得を

学校側への不審から動き始めた我々はこの問題がやがて、いやでも自分達の手の届かない所まで広げられ、深められていくのを感じていた。今年度より、国の私学に対する補助基準は一挙に十倍にアップされ、学校側が五十万と見込していた県補助は七百万前後に上った。

国・県の新しい動き

国の動きが実際に具体化したのが、十二月八日に発表された県の補正予算案である。これによると私立中・高に対する国の補助基準は生徒一人当り四千円（年額）と従来の十倍前後に増額されている（本校へはこれまで年額二五〇円の補助しかきていない）県側でもなぜ、国の補助が一挙に十倍にもはねあがったのか、国の新たな動きのその背景を探ってみよう。

国の文教政策

十一月、中教審から答申された初中教育改革案の中では「国家に教育権がある」という考えを明らかにし、十二月には早くも沖縄における教委任命制を決定するなど、ここ最近の国の動きの中にも、国家の教育行政権を強化しようとする意図がうかがえる。勤務評定以来、学習指導要領や、更には教科書検定などによる様々な形での国家の教育統制が進められており、このような一連の国の動きと考え合わせるとき、私学に対する、今回の補助大幅増額を、国の文教政策の一環としての〝私学統制〟のための一つの布石であると見ることもあながち無理な推論とは言えない。文部省の使う〝教育投資〟という言葉の中に端的に示される国の政策的背景に目を向けていく必要があるのだ。我々の最も恐れることは、国家の教育不当介入にほかならない。

だがそもそも〝教育費〟とは本来どのような性質を持つものなのか。

教育費の本来的意義

「教育」一月号（国土社）に〝社会保障費としての教育費〟と題する岩本正次氏の発言がある。「教育費は、個々の行政目的をもった直接的経済支出ではなく、教育内容は国の行政目的によって、直接的に、規制されるべきではない」とし、「教育費が財政支出の一つである以上、付加価値を生じることは事実であるが、それは国民の労働力再生産を通じての間接的経済効果であり、この意味では、教育費は社会保障費と類似の性格を帯びる」としている。更に、教育とはこのように労働力再生産過程であり、従って、教育費は公私立を問わず「国および地方公共団体が負担すべきもの」とし、教育費における父母負担への疑問を呈示している。

今後の課題

この二月、本県においても県高校教組が「県立高校の運営経費のうち半額は父母負担でまかなわれている」と、父母負担の多過ぎることを指摘し、県教委に対し、教育予算の増額を要求している。

だが、これに対して、運営経費の大半が父母負担でまかなわれ、機会均等の原則をも欠いた私立校は本校を含め、今のところ、何ら具体的な要求運動も展開し得ていない。国の補助基準が十倍になったと言っても、それは、これまでの補助がいかに少なかったかを示すに過ぎないことを認識すべきであろう。他の多くの県の私立校では一人当り月額千円の補助をめどに運動が展開されているとき、本校では一人当り月額二十円の補助に甘んじてきたのである。（東京都では既に、一人当り月額千六百円に達している）

「県に対しても働きかけてはいるが、某県のようにデモを行なったり、不隠な動きを見せて、世間の批難の的になってもいけないし…」と語る校長をはじめ、本県の私学当事者はあまりにもおとなし過ぎるとは言えないだろうか。

父母負担の軽減をはかるためにも、学校は私学の危機を訴えて立ち上がるべきである。教育が〝いけにえ〟にされることなく、教育の要求運動を展開すること、それが教育の今日的課題にほかならない。

ひとこと

○…二月九日の文化祭当日、新聞部の討論会「授業料値上げを斬る」に校長先生が途中から出席された。いや、校長先生自身のお言葉によれば「通りかかったので顔を出した」とのこと。この席で校長先生は、「我々としても、父兄負担はできるだけ軽くなるよう努力している」などと、抽象的な説明しかしてくださらなかった。

○…新聞部は、この家庭の事情で困る生徒もあるから授業料値上げはするな、した方が、極端すれば校舎も建てなくていい、とそう言うのか」と言っておられる。心ない言葉だと思う。校舎を建てなくていいなどと思っている生徒がこの土佐校のどこにいるだろうか。校長先生の生徒の心を無視したこれほどまでに増大した根本原因が、いったいどこにあったのか。そのことは、校長先生自身も十分ご存知のことではないかと思う。生徒委員会・新聞部が授業料値上げをめぐり活発に活動してきたのもつことはできまい。（M・I）

○…二月十日、文化祭が開かれた。ここで今回の文化祭を振り返って考えてみたい。

今回は開催前から生徒の関心が薄く、全体的に見て、スケールの小さいものとなった。原因としては文化部・執行部の不慣れが目立っていた。これは文化祭が二年に一回であるために、二年に一回は廃止すべきであろうと考えられる。文化祭をスムーズに行なうために、二年に一回とした理由は、次の四点である。

①当時の文化部の状態では文化祭がやれそうになかった。

②マンネリ化した文化祭へ無気力な生徒への刺激になる。

③準備期間が充分となる。

④中間発表を単独発表会として自由にさせるけれども直接的な原因である①は、アンケートでも毎年文化祭をやりたいという意見が大半であるし、文化部にもやるだけの力があると思われる。マンネリ化の文化祭を改新しようと行なわれた二年に一回は、反対に大きな弊害を数多く生んでいる。

各文化部へは、部員が経験不足になる。特に高校生としての文化祭は一度しか経験できず、そのため反省が次の機会に生かされない。このままでは文化部の展示は進歩のないものになってゆく可能性がある。さらに文化祭のない年の部活動が不活発になっている。文化祭とは文化部にとって一つの目標であり、発表の最大唯一の場である。この事は新多くの無関心派の中で一部の生徒に積極的な参加が見られたことである。一般参加の展示は六組。ステージは一組。模擬店にクラス単位で参加したのが四クラス。

主張

文化祭

学校側に望む

二年一回の再検討を

生徒参加で明るいいきざしも

二月九・十日、文化祭が開かれた。ここで今回の文化祭を振り返って考えてみたい。

今回は開催前から生徒の関心が薄く、全体的に見て、スケールの小さいものとなった。原因としては文化部・執行部の不慣れが目立っていた。これは文化祭が二年に一回であるために、二年に一回は廃止すべきであろうと考えられる。文化祭をスムーズに行なうために、二年に一回とした理由は、次の四点である。

①当時の文化部の状態では文化祭がやれそうになかった。

②マンネリ化した文化祭へ無気力な生徒への刺激になる。

③準備期間が充分となる。

④中間発表を単独発表会として自由にさせるけれども直接的な原因である①は、アンケートでも毎年文化祭をやりたいという意見が大半であるし、文化部にもやるだけの力があると思われる。マンネリ化の文化祭を改新しようと行なわれた二年に一回は、反対に大きな弊害を数多く生んでいる。

各文化部へは、部員が経験不足になる。特に高校生としての文化祭は一度しか経験できず、そのため反省が次の機会に生かされない。このままでは文化部の展示は進歩のないものになってゆく可能性がある。さらに文化祭のない年の部活動が不活発になっている。文化祭とは文化部にとって一つの目標であり、発表の最大唯一の場である。この事は新多くの無関心派の中で一部の生徒に積極的な参加が見られたことである。一般参加の展示は六組。ステージは一組。模擬店にクラス単位で参加したのが四クラス。

一般参加は展示、ステージ共にクラブと比較してもけっして見劣りしないものであったこれらを高く評価したい。また模擬店では店内にステージを設け、バンド演奏を行なったり、自分達で作ったカレー、アイスクリームを売るなど、楽しい雰囲気を作ってくれた。

一般生徒の活躍は低迷した文化祭に一つの希望を与える。二年に一回で展示に進歩がない文化部。不慣れな執行部。そして非協力的な学校。このような悪条件の中で、文化祭を盛り上げてゆくのはやはり生徒の他にはない積極的な一般参加で、文化祭を単なる文化部の発表会から学園の祭典へと育てていこう。

そのことは文化部の勝れた発表にもつながっていく。今回で見られた一般生徒の参加からこの〝学園祭〟への最初の兆（きざし）を見ることができる。

一般生徒の側から考えても文化祭が二年もの間なくては、文化祭に対する近親感がなくなってしまう。このことが関心を薄くさせる大きな原因になっていると言ってもよい。生徒の関心が薄くなれば、それはそのまま文化祭の衰退につながる。また、生徒にも文化祭への参加の仕方、参加の意味さえ分からなくなってゆく。それが現状である。二年に一回より、一年に一回の方が文化祭をより意味のあるものにしてゆくことはまちがいないだろう。学校側、生徒会に対し文化祭の再検討を重ねて望む。

しかし学校側は今回の文化祭で予算を大きく減している。先の二年一回を強行した事なども考慮すれば、文化祭を縮小へ縮小へと進めていくのではないかとさえ思えてくる。そのほかにも文化祭を週日に行なった事。校外者の見物を認めないことなども文化祭に非協力的な態度だと言わざるを得ない。

また執行部の不手きわも目立った。特に予算は先生に任せっきりで、一月下旬になってやっと決定する始末。準備が遅いという声がさかんに聞かれた。また執行部は模擬店を一般生徒に運営させた。それはそれなりに意味のある事だが、そこに余った力で何か催しを行なってほしかった。例年はフォークダンスが大好評だった。中学で行なった弁論大会も弁士一人、聴衆八人と失敗に終っている。

そんな中にも明るい動きがあった。それは多くの無関心派の中で一部の生徒に積極的な参加が見られたことである。一般参加の展示は六組。ステージは一組。模擬店にクラス単位で参加したのが四クラス。

評議員会

理事長に反省求める

私立学校法より抜粋

第四十一条　学校法人に、評議員会を置く。

2評議員会は、理事の定数の二倍をこえる数の評議員をもって組織する。

3評議員会は、理事長が招集する。

5理事長は、評議員総数の三分の二以上の評議員から、会議に付議すべき事項を示して招集を請求された場合には、その請求のあった日から二十日以内に、これを招集しなければならない。

第四十二条　次に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ、評議員会の意見を聞かなければならない。

①予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く）及び重要な資産の処分に関する重要事項。

⑥その他学校法人の業務に関する重要事項で寄附行為をもって定めるもの。

第四十三条　評議員会は、学校法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

第四十六条　決算は、毎会計年度終了後二月以内に、理事長において評議員会に報告しその意見を求めなければならない。

評議員会とは私立学校第四十一条で規定しているように、必置機関である。

その目的は、第四十一条第2項で規定しているように、評議員数を二倍に増し学校法人の公共性を高めるもの。つまり、学校側の一方的な態度を抑制する事である。土佐校の場合構成メンバーは、職員代表として三名、卒業生代表として二名、理事代表として三名など合計十五名で、第四十一条第2項にかなっている。

その職務は、第四十二条・第四十三条で規定している。特にその中で重要な職務は、理事長に対して予算・借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く）に関する事項、中に、必要な資産の処分に関する事項、寄附行為に関する事項、合併、解散に関する事項、毎会計年度の決算報告について意見を述べる事である。この場合決算は、一定期間における収入・支出・損益等の実績を明らかにし、予算と対比させることを言う。このように評議員会を招集しなければ、予算や建築の多額の借入金などを加えると、年数回にもなるだろう。

今後土佐校の大きな問題として、授業料値上げと第二期工事の資金調達があげられる。これらの問題を解決し、より民主的にすすめるためにも、理事長はどしどし評議員会を招集すべきである。

土佐校において評議員会は、最近まで有名無実であった。これは西野先生も認めている。校長の弁による。校長のお考えはあるにはあったようだ。しかし最近の記録をみると、昭和四十四年十二月二日に土地売買交渉について、昭和四十五年三月六日に四十五年度予算についての二回しか記録されていない。現在まで理事長の招集で散発的に行なわれていたらしいがその記録がない。また最近の記録によると、重要である決算についての会が開かれていない。これらは明らかに招集権を持つ理事長の責任である。これは西野先生も認めていうように評議員会は重要な機関であ

足もとに　優雅な　印象を……
ふくすけや

土佐中高等学校指定店
通学用かばん
ハンドバック
マーク（校章）イニシアル付き専門店
トミヤ
京町　TEL72−3418

写真
TEL ㉒6758
大丸東入口前
高橋

365秒間で…
どんなものからでも
電子リコピーでOK！
電子リコピー サービスショップ
山元文具事務機部
高知市梅ノ辻八番十二号
TEL　代表 ㉓ 3101
シートもの、ブックもの……
どんなものでも、５秒間で複写してお渡しします。
書籍・楽譜・講義ノート・教材テキスト・テスト問題

ぐ〜んと大きく安くなった
フジカラープリントE サイズ
楽しさを売る
キタムラカメラ
中村店 升形店 アタゴ店 本店 追手筋店 サエンバ店 安芸店
堺町33　TEL22−1641(代)

校内短信

◇…高崎、西川先生の個展がそれぞれ二月二十六日、二十七日に蒲屋町の笛画廊で開かれた。この個展は一人一日の割り当てで、会場全体を一つの立体作品にしたもの。高崎先生は九月から今回までに、この個展を六回開いている。

◇…体育の山本欣先生の結婚式が、三月二十九日郷里の土佐市で挙げられる。相手の女性は鈴木喜久子さん。岩手県の人で、現在二十二才。府中市の小学校で、先生をしておられる。

◇…今年四月から本校に赴任されていた司書の西尾貴美子先生は去年十二月づけで退職された。現在図書館には後任の司書がいなく、司書の仕事は図書館の先生方がなされている。

◇…本校一Aの松村直彦君は、一月下旬に開かれた子供県展（硬筆の部）で〝推薦〟を受けた。子供県展では〝推薦〟が最優秀賞。

トピックス

将来の夢を胸に
卒業式行なわれる
巣立ち行く281名

ブラスバンド部の高三生が卒業記念に、十四万円ものステレオを部に寄贈したというニュースを新聞部が入手。さっそく部員がインタビューに出かけた。

ところが話しが合わない。おかしいと思ってよくよく聞いてみると、寄贈されたのは四万九千円のステレオ。どこで誇大広告されたのかわからないが、とんだはじをかいてしまった。

それはそれとして、話によると顧問の先生がたいそうよろこばれているとか。また、今までにも部の習慣として卒業記念に黒板や楽器を入れる戸棚などを購入していたそうである。

しかしここにも昭和元禄の風潮が表われてか、年々寄贈品が大型化しているという。部員（特に高学年になると）は今からもう卒業の実績を明らかにし、予算と対比させることを言葉を耳にすることに、私は、次のことをあらためて考える。生徒会・新聞部が強く望んだ校舎移転に失敗し、着工がここまで遅れ、父兄への経済的負担が目要求決議があったころからも、「自分達の学校だから云々」をくりかえしておられる。校長先生は生徒に対し、漠然とした不安感・不信感を持っておられるのではないか。それはずなわち教育者としての自信喪失を意味する。

○…校長先生は、あまりに生徒の心を知らなすぎる。授業料値上げ、校舎建築の問題をきっかけに、生徒と身近に接すべきだそうでないかぎり土佐校に真の教育は存在しない。校長先生も教育者として確固たる自信を持

ひとこと

○…二月九日の文化祭当日、新聞部の討論会「授業料値上げを斬る」に校長先生が途中から出席された。いや、校長先生自身のお言葉によれば「通りかかったので顔を出した」とのこと。この席で校長先生は、「我々としても、父兄負担はできるだけ軽くなるよう努力している」などと、抽象的な説明しかしてくださらなかった。

○…そのひとつは、学校運営者としての自信喪失。校長先生は会の席上、生徒に対し「君達は家庭の事情で困る生徒もあるから授業料値上げはするな、した方が、極端すれば校舎も建てなくていい、とそう言うのか」と言っておられる。心ない言葉だと思う。校舎を建てなくていいなどと思っている生徒がこの土佐校のどこにいるだろうか。校長先生の生徒の心を無視したこれほどまでに増大した根本原因が、いったいどこにあったのか。そのことは、校長先生自身も十分ご存知のことではないかと思う。生徒会・新聞部が強く望んだ校舎移転に失敗し、着工がここまで遅れ、父兄への経済的負担がこれほどまでに増大した根本原因が、いったいどこにあったのか。そのことは、校長先生自身も十分ご存知のことではないかと思う。生徒会・新聞部が強く望んだ校舎移転に失敗し、着工がここまで遅れ、父兄への経済的負担が目要求決議があったころからも、「自分達の学校だから云々」をくりかえしておられる。校長先生は生徒に対し、漠然とした不安感・不信感を持っておられるのではないか。それはずなわち教育者としての自信喪失を意味する。

○…校長先生は、あまりに生徒の心を知らなすぎる。授業料値上げ、校舎建築の問題をきっかけに、生徒と身近に接すべきだそうでないかぎり土佐校に真の教育は存在しない。校長先生も教育者として確固たる自信を持つことはできまい。（M・I）

自信喪失

○…その二つめは、教育者としての校長先生の自信喪失。会の席上校長先生は、「自分達の学校なのだということを前提に討論をするように」と、何度も強調しておられた。あたりまえのことじゃないかと思う。生徒委員会・新聞部が授業料値上げをめぐり活発に活動してきたのも、「自分達の学校だから云々」をくりかえしておられる。校長先生は生徒に対し、漠然とした不安感・不信感を持っておられるのではないか。それはずなわち教育者としての自信喪失を意味する。

○…校長先生は、あまりに生徒の心を知らなすぎる。授業料値上げ、校舎建築の問題をきっかけに、生徒と身近に接すべきだそうでないかぎり土佐校に真の教育は存在しない。校長先生も教育者として確固たる自信を持つことはできまい。（M・I）

編集後記

今年もはや三月、事務室の前のハリ紙もかなりの長さになって学年のおわり冬のおわりを感じさせる▼この頃になっておどろくのは、参考書の数である。考えてみると「よく、こんなに買ったなあ」と感心するが新学期になるとまたせっせと買い始める。毎年増々ふえていくような気もする。その多くは、使わないで飾っておくだけだが、最近の参考書は実にビューティフルでながめるだけでも楽しいし、どうかすると、内容も理解してしまったような気になることさえある▼全国的にもその傾向は強いようで、初版から八百万部近く売れている参考書があるとか。参考書が隠れたベストセラーといわれるのも当然である▼学校をおえて 明文堂や 片桐に行くと土佐校生のいないことがなく、白線ばっかりということも珍しくない。参考書もただではないのだから、かなりの金が本屋さんにころがりこんでいるはず。その金は、ほとんど親から出るのだろうが、一人あたり中学でも三千円、高校になると五千円を下らないようだ▼親が子供に甘いことも確かだが、その金には、近い将来、子供が良い大学へ、良い社会へというせつない願いがこめられていることも間違いないだろう。ひょっとすると参考書代と子供の成績が正比例すると錯覚をおこしているんじゃないかという気がしないでもない▼なぜ使いもしない参考書を買うかーこれは複雑な問題であるが、原因の一つは先生の授業に対する不信、不安、不満であるというわさがチラホラ、どちらにしても今の状態からみると土佐校生の参考書は年々ふえることになるだろう。（T・K）

文化祭 展示内容は低下の傾向

今年も文化祭が２月９日～10日に行なわれた。別にたいした事故もなく終った文化祭。一見平凡に終った文化祭。しかしこの文化祭にもまだまだ解決していかなくてはならない問題が数多くある。その問題となっているのは、展示に進歩が見られない各部。文化祭を２年に１回を強行し、その上予算まで減す学校側。準備が遅れた執行部。そしてただ漫然と見物しただけで、文化祭を盛り上げようともしないわれわれ生徒でもある。

今回の文化祭を振り返って、平凡に無事に終った文化祭、とは考えたくない。なぜなら、今年の文化祭で問題になった事、また良い傾向などを、次の文化祭、その次の文化祭へと生かしていかなければならないから。ここで、今回の文化祭で注目される点を挙げて、考えてみたい。

振わなかった展示

ステージは例年以上のできだろう。

今回の文化祭の大きな特徴は、展示各部が振わず、ステージと一般参加がいろいろと趣向を凝らして文化祭を大いに盛りあげたことだろう。

展示各部は総体的にマンネリ化現象が見られた。例えば、映画、写真、登山など新しい創意が乏しいように感じられた。いわゆる〝呉引き〟的で内容の乏しい展示が多かったといえる。

また、生徒の関心低下という問題がある。例えば二月九日の午後図書館で開かれた自由弁論大会では、弁士一人聴衆八人という寂しさだった。

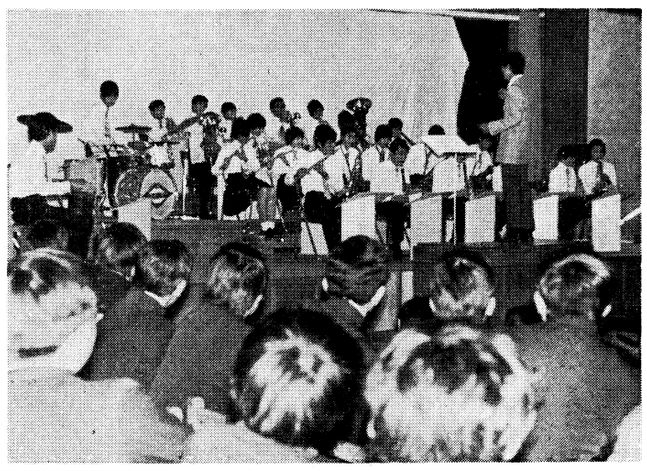
それにくらべ、ステージは各部の創意を凝らした出演が大いに好評であった。また忘れてはならないのが一般参加である。〝ユースホステル〟〝会話の部屋〟〝肥満児〟などユニークな展示で人気を博した。今後の文化祭の一つの方向を示したものと見てよいであろう。

今回の文化祭で表われた問題の一つに執行部の問題がある。つまり予算決定が一月末ころまで遅れたことである。そのため予算、日数その他の関係で、計画を大幅に変更せざるを得なくなったクラブがたくさん出た。

このいきさつについて執行部は①最後まで文化祭関係の予算が出るかわからなかった。②予算審議の時校長が旅行で不在であった。③予算が少ないため各部分担に手間どった。などの理由をあげている。

人気第一位の吹奏楽部の演奏

展示にくらべて、今回はステージがよくまとまっていた。吹奏楽のほかに英研、演劇などが好演。



去る二月九日・十日の両日にわたって行なわれた文化祭について別表はその結果である。今回の文化祭の問題点・特徴などがよく表われている。

まず問一で問題になるのは、文化祭への生徒の関心低下である。例えば前回の文化祭において「全部見た」という生徒は四十三％もいた。今回は十八％である。

問二では、展示で人気のあった順に映画・物理・登山・茶華・気象・ステージは吹奏楽、英研、放送、一般参加（フォークソング）となっている。

問三・問四で自立つのは、一般参加に対する生徒の関心が高まったことである。いままでも一般参加はあるにはあった。しかし、参加するのは一つか二つであって生徒の関心はそれほど高くなかった今回を契機にして一般参加がさかんになることは、十分予想される。

しかし文化祭が文化部発表会というのなら、この一般参加は今後検討されなくてはいけない問題。また、問八では「毎年行う」という意見が大半を占めた。これは前回の文化祭アンケートと同じである。

この表にある回答のほかにも、「休日と重なるようにすれば父兄も見ることができるのに残念だ」「校外への宣伝が行なわれていない」などの声があった。なお、このアンケートは中三から高二まで行ない、回収率は五十三％であった。

「毎年行ないたい」77％

◆◆ 新聞部アンケート集計結果 ◆◆

人気のあった 映画、物理、ブラバン

文化祭アンケート

問1	あなたは文化祭の展示物を見ましたか	全部見た ほとんど見た 少し見た まったく見なかった	18（％） 46 25 11
問2	文化祭でよかったと思うもの	展示 ①映画 ②物理 ステージ ①ブラバン ②英研	
問3	一般参加の展示について	全部よかった ほとんどよかった あまりよくなかった	9 47 44
問4	一般参加についてどう思いますか	もっと積極的に 今ぐらいが適当	80 20
問5	あなたは模擬店を利用したか	した しない	81 19
問6	その模擬店はよかったか	よかった よくなかった	60 40
問7	文化祭の日数は何日がよいか	1日 2日 3日	1 41 58
問8	文化祭は2年に1回でいいか	毎年行なう このままでよい なくてよい	77 22 1

生徒は年一回を望む

内容が深かった気象

映画、登山、もう一歩の創意を

気象部

今年の文化祭に出展した各部の中で、最も熱心に取り込んだクラブと言ってよい。展示各部の中には文化祭の準備が遅れ、短期間で表面だけを作り上げたクラブが見うけられた。気象象部は二学期にはすでにテーマも決定し、展示の方針、内容も定まっていた。

気象部の展示の特色は分かりやすい説明と適切な模型である。特に模型は熱の入ったものが多かった。注目されたのはタタミ一程度の大きさがある〝高知県の地形・気象〟の模型だった。細かい所まで詳しく正確に作られており着色も鮮明なものだった。ほかにも三種類の模型が展示されていずれも小粒ではあったが、細かい所までよく手のいきとどいたものだった。

テーマは「風」で、内容は「大気の環流」「竜巻」「フェーン・ジェット気流」「高知県の気候風・風力・雨量そして台風十号の被害」などが中心となっていた。

このほかにも「観天望気」（天候を自で観察し、次の天気を予想する）や「生活の中に見られる気候」「大気汚染」など素人にもよくわかるやさしい説明が目立った。

物理部

土佐校の一郭に現代版おばけ屋敷（？）が現出した。これが物理部の WONDER WALL（幻覚的空間）であった。

教室の大半を机と椅子で囲み、それにベニア板をはりつけ、そして暗幕をたらしたものである。内部は、入口を入るとすぐ螢光剤があやしく光り、そこをすぎるとストロボが点滅しロックが流れる別世界に到達する。特にストロボの威力は絶大であり、本当に幻覚症状が現われたかと疑うほどである。

ここに何度も足を運んだ人もいれば、「物理の本当の意味からすこしずれているのではないか」といって批判する人など様々であった。

映画部

一般展示と映画の上映が行なわれた。展示にはある程度マンネリ化現象が見られたが、それは映画入口が多い本校のこと、アンケートでも人気最高であった。

今後部としては映画を作ったりしてマンネリ打破のため新風を吹きこむそうである。上映された映画（鉄道員）毎回満員の盛況で人気を博した。

会話の部屋

今回の文化祭のユニークな存在として、三Cの橋本君を中心に出展された「会話の部屋」がある。ステンドセロファンで中世の教会風に装飾された美しい窓。暗幕をおろして薄暗くした室内。そして大勢の若者の熱っぽい対話。

この一般展示は、トランプ占い・ディスカッション・趣味の会話・無題の会話（初めて語りあうものどうし共鳴できるものはないだろうか）などにわかれて活発な対話が行なわれた。

この展示の代表者である橋本君（三C）にその目的をたずねてみた。「そうですね。僕たちは土佐校生という集団をつくっているものの、お互い話しをしたことのあるというのはごく限られたわずかしかいません。だから、この会を持つことによって土佐校を媒体とした何か新しいものがつかめればと思ったのです。この目的は十分に達せられたと思います」と語ってくれた。

この成功不成功は別としても、現在の僕たちがいかに対話に飢えているかという深刻な問題の側面がここに顔を出している。

登山部

展示場は一面に敷きつめられた落葉や立木、そして岩でかざられ、山の雰囲気を出していた。中は暗くされ赤い電球を利用しての焚火、テント。山の夜が作り出されていた。

しかし登山部は例年もこのような展示に新鮮味がなかった。今回上映された山登りの八ミリ映画は好評で、人気のあった理由でもある。

演劇同好会

今まで細々と活動を続けていた演劇同好会が、人員を補充し、冬休みも返上して練習を行い発表した労作であり意欲作である。

題名は、佐藤良和作〝LOOK AT THE MOON BETWEEN THE BUILDINGS〟（ビルの谷間の月を）

この劇を見て、生徒は次のような感想を言っている。「劇として成り立つために最も大事な観客とのコミュニケーションが全然されていた。ただ舞台だけがつっ走って観客が完全にとり残された」、「女性五人だけでこれだけひきしまった演技ができたことは偉い。久しぶりによい演劇を見せてもらえた」、「何を言っているのかさっぱりわからない。この劇は単なるひとりよがりでしかない」など。

結局この劇の性質上賛否両論にわかれるのはしかたがないことだろう。

英語研究部

英研部は、シェークスピアの名作「ベニスの商人」の第四幕を、英語セリフを用いて上演した。つまりシャイロックがアントーニオの胸の肉一ポンドを切りとろうとするあのクライマックスのくだりである。

英研も演劇同好会同様かなり前から練習を始めて本番にそなえたそのため大いに見ごたえ、聞きごたえのある劇となり客席を沸かした。

特にシャイロックの白熱の演技は、満場の観客からため息さえもれたそうである。

「見方を変えると単なるドタバタ劇にすぎないが、そこまで求めるのは酷だろう。英研本来の目的から見た場合は、ある程度成功していると思う」「英語の発音の面からみると、個人差が目立ったように感じた」「良かった。動作、発音などもよく練習されており服装もかなり凝っていた。十分僕たちを楽しませてくれた」劇を見た生徒の感想である。

英研は演劇同好会同様地道な活動を続けている。じっくりと足を地につけて上演された二つの劇。各自の好き嫌いはあるが、一般に高く評価されている。

シャイロックが好演 ブラバン、演劇も盛り上がる

吹奏楽部

新聞部アンケートでも人気第一位。今年はクラシック、マーチ、ポピュラーの各部門に分かれ、それぞれに持ち味を発揮した。

演奏は献呈序曲から始まり、十七曲。ソロ演奏も多く取り入れられていた。

顧問の北条先生は「ますます良いできだった。ポピュラーに関しては県内でも自慢できると言ってもよい。準備で予定がくるった事は反省しなくてはいけない」と言っている。

演劇同好会

今まで細々と活動を続けていた演劇同好会が、人員を補充し、冬休みも返上して練習を行い発表した労作であり意欲作である。

題名は、佐藤良和作〝LOOK AT THE MOON BETWEEN THE BUILDINGS〟（ビルの谷間の月をノ）

この劇を見て、生徒は次のような感想を言っている。「劇として成り立つために最も大事な観客とのコミュニケーションが全然されていた。ただ舞台だけがつっ走って観客が完全にとり残された」、「女性五人だけでこれだけひきしまった演技ができたことは偉い。久しぶりによい演劇を見せてもらえた」、「何を言っているのかさっぱりわからない。この劇は単なるひとりよがりでしかない」など。

結局この劇の性質上賛否両論にわかれるのはしかたがないことだろう。

英語研究部

英研部は、シェークスピアの名作「ベニスの商人」の第四幕を、英語セリフを用いて上演した。つまりシャイロックがアントーニオの胸の肉一ポンドを切りとろうとするあのクライマックスのくだりである。

英研も演劇同好会同様かなり前から練習を始めて本番にそなえたそのため大いに見ごたえ、聞きごたえのある劇となり客席を沸かした。

特にシャイロックの白熱の演技は、満場の観客からため息さえもれたそうである。

「見方を変えると単なるドタバタ劇にすぎないが、そこまで求めるのは酷だろう。英研本来の目的から見た場合は、ある程度成功していると思う」「英語の発音の面からみると、個人差が目立ったように感じた」「良かった。動作、発音などもよく練習されており服装もかなり凝っていた。十分僕たちを楽しませてくれた」劇を見た生徒の感想である。

英研は演劇同好会同様地道な活動を続けている。じっくりと足を地につけて上演された二つの劇。各自の好き嫌いはあるが、一般に高く評価されている。

新刊抄録

請求番号	著者	書名	出版社
918 シ	船橋聖一	新潮日本文学29 船橋聖一集	新潮社
081 ツ	井上光貞	日本の名著 日本書紀	中央公論社
440 アシ	アサザック・アシモフ	アシモフ選集 宇宙 II	共立出版
908 シ	高橋義孝 訳	新潮世界文学34 トーマス・マンII	新潮社
080 カ セ	永井道雄 訳	世界の名著 23 ホップス	中央公論社
210 ニ ホ	大橋俊雄	日本思想大系10 法然一遍	岩波書店
908 カ セ	大岡昇平 訳	世界文学全集4 スタンダール	講談社
918 シ	有島武郎	新潮日本文学9 有島武郎	新潮社

本の紹介

ライフ自然シリーズ アフリカ

アルチーカー著（林寿郎訳）

アフリカの大自然をそのまま庄縮したような本である。

アフリカの基礎知識や簡単な歴史に始まって次にカバ、クロコダイル、ライオン、キリン、ヒョウなどアフリカに住むあらゆる動物の生態、あるいは雄大な自然そのものを生き生きと写真や図で解説し、最後に現在、破壊され崩壊しつつあるアフリカの自然や滅びゆく動物達の保護問題にするどいメスを入れている。その深刻さやアフリカの容易でない未来までも暗示している。

がしかし、読むというよりは見るための本と言う方がむしろ適切であろう。そのすばらしいライフの写真は、我々自然を失ってしまった文明人にとってはまさに目の保養ともいうべきものである。

沈黙の世界史 5 ヨーロッパ 石と森の文化

角田文衛・新潮社

古代への情熱をもやした多くの学者達のヨーロッパ発掘のドラマを中心に、十五世紀の古物趣味に始まって今日でのコンピューターさえ使用する科学的発掘調査に至る考古学研究発達の歴史を通して、ヨーロッパ古代史を様々な角度から解明している。

専門的な歴史書ではないので固苦しくはないが内容的にはかなり充実しており、その多くの写真と図は内容の理解を容易にしている。ただ、記述がいささか詳細すぎて少々無味乾燥になった所も少なくない。しかし、ヨーロッパ各地に遺存する巨石墳やフランスを中心に栄えたマドレース文化の洞窟壁画、また丘陵に築かれたケルト人の高城や、ウィキングの船葬墳など変化に富んだ多くの対象はその欠点を補って余りあるものである。

なお題名の〝石〟は南ヨーロッパを〝森〟はアルプス山脈以北のヨーロッパを象徴している。

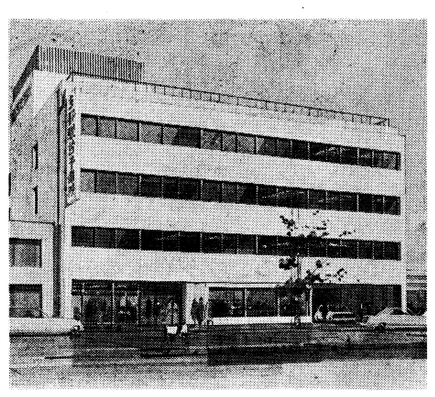
土佐名産サンゴと
宝　石　は
池田サンゴ店
高知市帯屋町一丁目
TEL ⑫ 0358

〝土佐名産〟
特製〝金　波〟
立石（重馬）蒲鉾店
高知市京町4
大丸東側　TEL ⑫6279
（野村証券北隣）

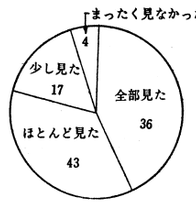
中華料理
龍園
高知市梅ノ辻57番地
電話 ㉝ 5271番

信用あるお店で安心したお買物を
通学用、旅行用かばん・袋物
マエダ
かばん店
高知市帯屋町18　TEL 72—8600・8601

コンピューターとカセットテープによる
科学的・立体的な学習指導
現役合格率最高を誇る
第一学習社の通信教育
◇高1　7月・9月生コース
◇高2　4月・8月生コース　10月生コース
◇高3　4月・8月生コース
◆ユニークなテキスト学習
◆懇切・丁寧な真赤な添削
◆徹底した担任制個人指導
◆授業と並行した循環式学習システム
第一学習社
‖‖‖‖案内書はハガキで下記へ‖‖‖‖
東京：東京都大田区蒲田4—29—1　㊢（732）5906
京都：京都市左京区下鶴宮崎町168　㊢（781）9351
広島：広島市西白島町17—3　㊢（28）5171

京都駿台予備校
50年の伝統と成果を誇る駿台が京都に姉妹校を開校致します
（目標）京大・阪大・名古屋大・神戸大・同志社大・立命館大・他一流国・公・私立大（公認申請中）
開講　4月24日
46年度入学要項
（設置部科）
午前部　理科系総合科
午前部　文科系総合科
昼間部　総合科
高校生特別補習科
（入学の方法）
◉午前部（理・文）系総合科は選抜試験を行なう
○試験日　（1回）3月22日　（2回）3月27日　（3回）4月2日　（4回）4月7日
○試験科目＝英語・数学・国語
○試験場＝京都・東京（いずれで受験するも可）
◉昼間部総合科・高校生特別補習科
○無試験申込順入学許可
▶願書受付＝2月下旬より
▶詳細は入学案内書参照　〒55円要

〒602　京都市上京区堀川通り丸太町下ル
TEL　京都　075（841）1108

準備の遅れ目立つ
予算は大幅に減少
執行部



今年の文化祭にもまだ多くの問題が残されていた。今年は文化祭の前後を問わず、生徒の関心が薄かったようである。アンケートにも見られるように一昨年の文化祭では「展示は全部見た」という答えが四十三％もあったのに対し、今年は十八％にすぎなかった。一般参加や模擬店の方が忙しく、展示を見られない者が多かった。という見方もあるが、それは極めて少数の者であって、多くは全部見ることができたはずである。また「殆んど見た」という回答を加えても六十四％にしかならず、一昨年の七十九％にくらべて低い。生徒の関心が薄れるということは、文化祭の盛り上がりがなくなる事に継がる。

生徒の関心が薄い理由は、現在よく言われている無関心主義（自分に直接関係しないものには関心を持たない）がある。しかしそのほかに文化祭が二年に一回しかない事も大きな理由になっている。これは文化祭を生徒から縁遠いものにしている。その結果 生徒は〝見物〟だけに終っている。その見物も最近は興味本位になっていく傾向にある。

二年に一回の文化祭はまだ多くの問題を持っている。執行部、文化部に対しては、部員が文化祭に未経験あるいは不慣れとなってしまう。今回では執行部に不慣れが目立った。それは文化祭の準備が遅れた事。特に予算面では特活部の先生に任せっきりとなった。結局予算の決定は一月下旬まで延びた。予算の多少により展示内容を変えようと考えていたクラブは数多くあったが、予算決定が遅れたため、やりづらかったというのも

文化祭には悪い面ばかりではない。次の三点はこれからの文化祭に明るいきざしとなっている。一般参加が増えた。一般生徒で運営された模擬店が成功だった。ステージがよくまとまっていた。

一般参加の展示は六組。すべて中三からの出展だった。中でも注目されたものが三C橋本君を中心にして出された「会話の部屋」。人生対談、ディスカッション、趣味の会話、無題の会話に分かれて、活発な討論がされていた。またトランプ占い、星占い、玉占い、易が人気を集めていた。

一般参加について紹介しよう。

「郵趣創業百年にちなむたのしい切手展」一Cの杉本君を中心に本校生八人の協力で出展された。展示された切手は三百三十枚。日本切手が百八十枚をしめていた。外国切手は万博、宇宙、絵画、航空機、建物などに分けられて展示されていた。

「ユースホステル」知らない人に便利なユースホステルを知ってもらいたい。そういう願いで出されたユースの紹介、ユースホステルの所在地。ユースホステルの利用法、利用しての旅行計画など。

が主な内容で、親切に説明されていた。作製したのは三Eの岩村君ほか中三男子のユース会員十人。

「手芸品展示即売」展示作品は二百点余り。出展したのは三Cの西村さんほか 中三 女子 約四十五人、主な作品はゆかた、サイフ、帽子、マフラー、ぬいぐるみ、スートルなどで既製品とはまた別の味があるというもの。〝70年夏の着物展〟と題する予定だったそうだが、それは少しおおげさ。

「壁新聞一三A一」内容は「土佐高生は肥満児である」が主題。そのほかに先生紹介（久保田、宮村先生）、詩、川柳、ポスターなどが展示された。

一般参加をした理由についても「会話の部屋」の橋本君は「クラブに入っていない生徒達はこの文化祭の期間中ただぶらぶら歩くだけで、それでは意味がない。そこで僕達だけでもと参加した。僕達にとってこの文化祭は意味が深かった」と言っている。そのほかステージにも一般生徒の参加があった。

模擬店は二T・二H・二O・一Hがそれぞれ 出店。一昨年までの〝お役所仕事〟とちがってさまざまな趣向をこらしていた。特に二Tは店内にステージを設け、エレキバンドの演奏が行なわれた。店内は観客でいっぱい。好評を博した。また一Hは自分達で作ったカレー・アイスクリームを販売。お味の方はいかが？。その上ほとんどの店がステレオ音楽を流していた。これら各クラスの熱のいれようがうかがえる。

このように一部ではあるが、一般生徒の積極的な参加があり、今までのマンネリ文化祭から脱皮する傾向が表われてきている。

ステージは以前から人気のあったプラバンに、演劇、英研、一般参加（フォークソング）が加わり、よくまとまっていた。

他に、映画同好の一般生徒が、映画、「天国と地獄」と自作映画を上映した。

増えてきた一般参加
模擬店、ステージも好評

一般参加の展示場（手芸品展示即売）

の熱も入る。生徒の関心が高まってゆく。市内の他校でも、学校ある。

げての文化祭。そういった感があった。

笑字典をどうぞ
ユーモアをとりもどそう

ビール・ホップ少々と、税金を　思いきり加えてみました。

歯科医・人の口で飯を食う人。

横断歩道・人体が、ときおり車　に横断される所。

消費者・大事な大事な、お馬鹿　さん。

勇気・生まれるにもいらず、死　ぬのにも不必要で、生きるにはむしろじゃまなもの。

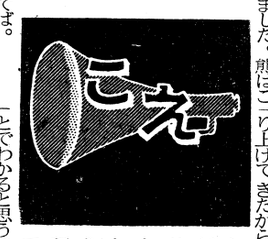
友情・自殺する友人を、じゃま　しないで、そっと死なせてやること。

流動食・酒・ビールのような重　病人の食物。

八百長・足柄山の金太郎は、熊　とお相撲をとりました。熊はこわろと負けました。

英会話・Can you speak English？　No I cant　**お年玉・お父ちゃん、あけまして**　おめでとうってば。

女言葉・おねま、おネグリ、おトイレ、おごはん。おこちそう、さまァみやがりあそばせね　以上は、私の愛読書から引き出したものである。



さて、「日本人にはユーモアがない」とよく言われる。それは日本が明治から現在まで、先進国に追いつこうと歯を喰いしばり、やれ戦争だ、やれ革命だで、目をつり上げてきたからだろう。しかし、実際日本人がなかなかユーモリストであることは、江戸時代からの落語をきらに盛んにし、新らしく漫才まで生み出したことでわかると思う。けれど、確かに外国人と比べれば、百年間の空白がたって目にみえておとっていることがわかってくる。

そこで私は、諸君に「国語笑字典」・「英語笑辞典」なるものを是非お進めしたい。笑いをとりもどすだけでなく、試験勉強の合間に読むと、頭を休めることもできるからである。（H・K）

新聞部より

最近、声の投書がめっきり減りました。以前は多すぎて選択に困ったものです。新聞というものは、記者の意見だけでなく、生徒の意見を幅広く載せるためでもあるわけです。新聞部では、生徒のための新聞をつくるために、みなさんの声を待っています。みなさんの悩みや気のついた事などどし投書箱に入れてください。

第二分科会
アンケート調査行なう
目的、生徒の現状をつかむ

今学期になって第二分科会に六種類のアンケートはそれぞれ次のねらいで作製されている。①本校生徒の実態とその特質②生徒は何を要求しているのか③生徒をとりまいている社会環境と学校④H・Rのあり方について、生徒の経験交流を通して⑤クラブ活動と勉強との問題⑥生徒・父母と教師との結び付きについて―保護者会、二人担任制などである。これらのアンケートは各担当の先生方で集計され、中間発表として、統計的な資料とされる。

アンケート調査を行なった第二分科は、去年十月に結成された分科会の中の一科である。分科会が結成されたのは、当時カンニング問題が深刻化したり、盗難が続発したりで「五十年目の堕落」ときえ言われる状態となった事が、先生方の間で問題となったためである。

そしてそれらの問題に対して、その場しのぎの改善案を出すのではなくて、問題が起った原因を深く研究し、抜本的な改善を行なう事になった。これがこの大がかりな分科会となったわけである。

この会は四つの大きな科によって構成されている。各科のテーマはそれぞれ次の通り。①本校の教育内容について（教育制度の研究）②今の生徒をどう把握するか―生徒補導のあり方について（生徒の現状をつかむ）③学校の諸規則規定とそれを破ったときの処置について（規則について研究する）④教師の 研修について（授業・教師側の問題についての研究）

今回アンケート調査をした第二分科会はこれらの中でも活発な活動を行なっており、年来の難問題に真向から挑戦した形となっている。

校試　高入
競争率は9.1倍
百二十一人が志望

合格者発表風景　二月二十八日午後五時より本校玄関で合格者の発表があった。次々にはられてゆく紙に受験者の目が集まった

高三の教室を使って、一月十九日と二十日の両日に、高校入試が行なわれた。今回は定員六十四名に対し受験者百二十一名で、競争率は例年より少し高い一・八九倍だった。

昨年は、中三の生徒も実力テストの形で、入試問題ととり組んだが、今年は行なわれなかった。

しかし体育館に貼り出された試験問題の前で頭をかかえる本校生も見られた。

また、二十八日の午後五時からの合格者発表には、多くの受験者がおしよせ、列記された名前を血まなこで追っていた。

会長に福島君
中学は川崎君

三月一日（月）四十六年度前期の執行部会長選挙が行なわれた。

立候補したのは現在会長の矢野洋君（1H）と福島康志君（1O）。選挙の結果、福島君三百六十八票、矢野君百九十三票で、福島君が当選した。副会長には岡江正純君（1O）と山本機君（1O）が立候補し、信任投票となった。その結果、岡江君が承認された。

先に行なわれた中学校中央委員会選挙では川崎真人君（2D）が当選した。中央委員会のメンバーは次の通り。

会　長　川崎　真人（2D）
副会長　堀見麻保呂（2A）
委　員　北島　勲（1B）
　　小松　文都（1B）

医学、法学部に人気
東大、一橋大はやや減少
志況　学状　大望

四十五年度の進学志望大学の状況が指導部でまとめられた。

本年度は二百八十六名全員が進学希望。

そのうち国立大学志願者は二百七名である。そのうちわけは、岡山大が三十五名でトップ。次いで徳島大の二十六名、広島大が二十二名、京大が二十名。阪大は十七名、東大と金沢大は共に十一名、島取大は十名となっている。また地元高知大は十一名だった。

一方、私立大学の方は早大が十一名、慶大と中央大が共に十名、同志社大が三名。また、医学部だけをみると岡山大が十五名でトップ、次いで徳島大の八名となっている。

系統別にみると文科系が百三十二名、理工系が百五十名で例年とあまり変わりない。

学部別にはトップが医学部の五十一名で昨年より二割増し。次いで法学部が四十四名、文学部が四十名、経済学部が二十七名。また薬学部が二十六名、教育学部が十七名。理学部と工学部はあわせて六十九名などとなっている。

今年の傾向について山岸先生は「最近、医学部希望者の増加が目立っている。特に女子のこの方面への傾向が著しい。また、京大、阪大等はあまり変化がないが、一橋、東大は減少してきている」と言っている。

本校美術部も出展
高知県高校生徒美術展

高知県高等学校生徒美術展が一月二十八日から、三十一日までの六日間、高知県立郷土文化会館で行なわれた。

この美術展の出展作品は絵画が中心であった。本校美術部は立体の持つ概念を具体化したいという合同の立体作品を出展した。例えば、マンガの本を十数冊重ねたものを立方体にくりぬいたものや、もじゃくった紙をたくさん積み重ねたものなど。ちなみにその題名が、「ウォーホールのための十五分の天才」という難かしいものである。

このような特異な作品について美術部では、去年十一月、中央公民館でおこなった展示会を発展させたものだと言っている。

生物同好会
部へ昇格の動き

最近、部への昇格を望んでいる生物同好会が園芸部と結んで部に返り咲こうとしている。

同会の岡田君は、

「部へ昇格したいが、単独では無理だと思う。だから同じような活動をしている園芸部と手を結ぶことにした。園芸部には後継者がいなく、我会と合併すると同部には後継者ができる。そして我部は、部に昇格できる。四月に申請を出します」と話している。

参考書は　２階売場
明　文　堂
ニューコーチビル西端
ＴＥＬ ㉒6395（代）

第９回　せともの市　４階
京のうまいもの会　地階
３月20日（土）→25日（木）
高知ハリマヤ町
とでん
㉜－0111

寿　し　柳
本　店　高知市八百屋町８　ＴＥＬ ㉒ 0101
別　館　高知市 掛川 町２５　ＴＥＬ ㉒ 8448
支　店　高知市 帯 屋町９０（公設市場内）　ＴＥＬ ㉙ 5373
支　店　高知新聞放送会館地下　ＴＥＬ ㉕ 7004
支　店　高知市 帯屋町 104 文 教 会 館 内　ＴＥＬ ㉕ 0411
支　店　ショッパーズプラザコーチ四階食堂　ＴＥＬ ㉕ 2175

新築落成に・ご婚礼用ご出産用に……
祝餅・赤飯・饅頭
創業明治二十年
老舗　中納言
本　店　大橋通り ㉒0573 ㉓2490
潮江店　天神町 ㉒2979 ㉕2979

学生服専門店
児　島　屋
高知・帯屋町二丁目
ＴＥＬ ㉒ 五五一一

入文学服
本町中ノ橋電停前北側　ＴＥＬ ㉒ 1776・2744

営業用並家庭用品
珍しい品のある陶器店
依光陶美堂
高知市オビヤ町　ＴＥＬ ㉒ 2321

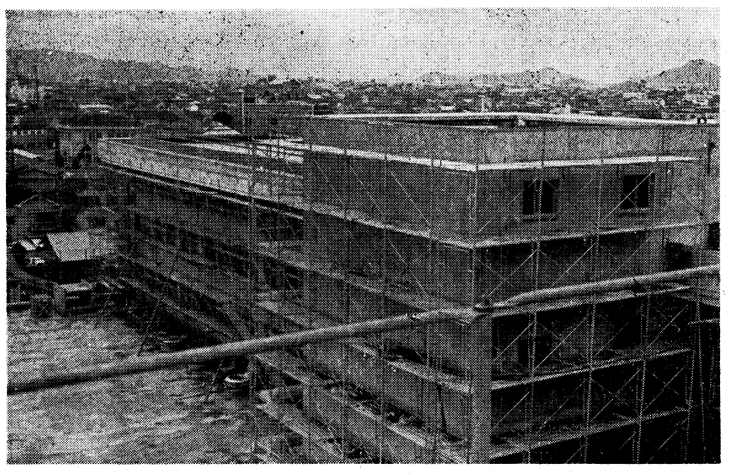
三月末に完成予定

予定日せまり急ピッチ

工事関係者の説明

中央塔は五月までに

新校舎建築の第一期工事は、四五年八月七日に起工式が行なわれてから今月で、まる八か月目をむかえた。工事は、くい打ちなどの基礎工事、校舎本体の建築、それと並行して室内装飾と進んでいる。現在はもっぱら室内装飾に取り組んでいるようだ。だが、ここに四つの問題がある。一つは、完成予定日三月三十一日を目前にして先生方の間で「これで新学期から新校舎で勉強するのは困難なようだ」との声が強いこと。二つは、第二期工事（中学塔・講堂など）の資金繰りが苦しく、現在いつから工事を始めるか見当がついていないことである。三つは、中央塔の文化部部室についてである。今まで二・三の部が内定しているが、他の部屋はこれから話し合いで決める予定。四つは、自転車置場と先生方の通勤用自動車についてである。



【写真説明】二月下旬の工事現場。中央塔の屋上から、高校塔を撮った写真で、左下の広い所は、二階にあるバルコニー。外部はほとんどできあがっており現在室内の装飾が行なわれている。

最近、先生方の間では新校舎建築について「期限どおり工事は終るだろうか。生徒がいるのは遅れるのでは」との声が高まっている。だが、清水建設事務所では「期限は学校側との契約で決められている。だから高校塔は四月一日までに終了するので、新学期から新校舎で授業ができると思う。しかし、自転車置場は契約にはいっていない。また中央塔は五月一日までに完成さす」といっている。

工事が進むにつれて新校舎の詳細が明らかになってきた。まず室内の壁はクリーム色。外側の壁はくすんだこげ茶で落ちついた感じバルコニーはベージュ色である。また室内の床は板ばりで廊下はセメント。中央塔の四階には校章がつけられる。さらに昇降口では、上ばき用と下ばき用にけた箱を分けるという新しい方法がとられている。

新校舎全体を通して改善された点は ①便所が多く広くなった ②特別教室が増加された ③事務室・保健室などが拡張されたなどが挙げられる。

反対に、依然されていない点は ①自転車置場が狭いなど重要な問題は未解決のままである。②について学校側は、材質の規準が一定であるため長くしたければ、材質を換えなければならない。だから経済的な理由でしかなかったと言っている。

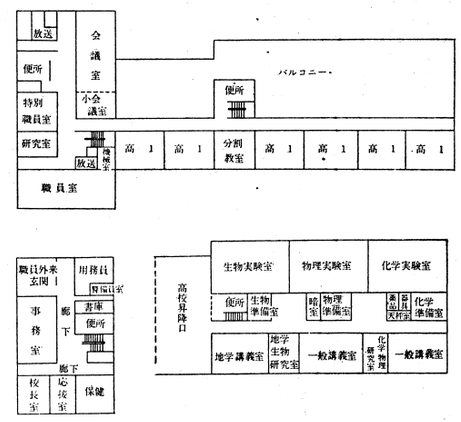
新校舎には現在三つの問題点がある。

その一つは、新校舎に設けられる文化部部室である。文化部において部屋とは活動の基礎となるもので、そのあるなしは重大な問題である。学校側としても話し合いによる解決を望んでいるが、決まらない場合は抽選によるもよう。

二つには、自転車置場と先生方の自動車について、新校舎では、道路と校舎との間に自転車置場を設ける予定である。だが、現在の台数をすべて収容することは不可能、別の置場を作ることも容易でない。そこで考えられる方法は学校周囲の溝の活用である。しかしこれを自転車置場にするには、市などとの問題があるため学校側は思案中である。

三つには、第二期工事の資金繰りと工事開始について、第一期工事の資金は調達できたが、第二期工事の方は難行しているようだ。そのため、第二期工事をいつから始めるか見当がついていない。引き続いて行なえば経済的であり、先生方でも旧校舎と新校舎を行き来きしないですむ。

これらの問題は容易に解決しそうにない。今後生徒と学校側の協力が期待される。



1階　事務室、校長室、応接室、保健室、用務員室、(生物・物理・化学)の3実験室、3準備室、(地学・一般)の3講義室等
2階　職員室、特別職員室、会議室、研究室、小会議室、(応接室)、カウンセリング、高1クラス分割教室、6所等
3階　LL教室、合併教室(生徒会)、社会科教室、社会科準備室、(高校・中学1の2委員会分割)高教室、2の6クラス、便所等
4階　書道室、図書室、合併教室、高3の6クラス、分割教室、音楽教室、被服教室、洗濯室、調理教室、染色室

四十六年度の予算決定

大幅に遅れた準備

予算委員

四十六年度予算会が二月十九日から三月二日にかけ、六回に分けて開かれ、来年度の各部予算が決定された。

例年通り、会前に小委員会が構成され、部長や資料、小委員会案などの作成にあたった。その方針として、ユニホームなど個人色の強いもの、雑誌などは認めない。また運動部の参加登録料は各部一律二千円とすることであげられた。それに対し、柔道部は柔道着を個人色が強くないものであると強調、剣道部が一頭にまくタオルを、ただ二つのチーム統一の物であるとして要求したが、ともに否決された。

その結果、ほとんどの部が小委員会案通りとなり、例外的な新聞部、柔道部をのぞいては、今年度予算と較べて大きな変化はないが夏の台風や新校舎建築のあおりをくらった部に多少の増加がみとめられ、その分特別費が減少した。また間の金額差が大きいのは、各部自体の性質、活動状況などによって審議されたため、一般に運動部が文化部より額が大きい。

予算会そのものは、議長の岩田君が交通事故で入院し、副議長の富田君が議長を臨時につとめたことや、小委員会の手違いなどによって非常に手まどった。しかも毎回、生徒委員の出席率が低く、議長など役員を含めても三十人たらずだった。また中には自分の所属している部の審議のみに出席し、それが終ると議長の許可もとらず抜けるという無責任な委員もいた。

46年度各部予算決定額

文化部	46年度	45年度
映画部	12,000	12,000
園芸部	13,750	8,500
英研部	5,000	8,000
音楽部	7,095	10,500
化学部	29,386	21,270
茶道部	9,300	8,850
写真部	18,000	10,900
書道部	41,750	43,660
新聞部	110,500	57,085
ブラバン	140,000	155,489
図書部	1,970	3,320
P.F.C	2,500	4,250
美術部	39,750	28,250
物理部	40,000	40,000
文芸部	70,000	88,500
放送部	46,500	43,550
気象部	8,740	6,692
応援部	1,000	1,000
自動車部	0	1,290

運動部	46年度	45年度
空手部	9,700	16,000
弓道部	54,100	43,500
剣道部	52,000	48,250
柔道部	89,000	29,500
サッカー	121,920	110,170
ハンド部	61,000	61,920
ソフト部	66,500	51,650
卓球部	53,760	52,150
硬庭部	42,400	80,700
軟庭部	51,600	44,900
登山部	24,800	15,640
バドミントン	66,550	59,550
野球(高)	246,890	249,320
陸上部	97,600	88,270
野球(中)	39,940	37,350
バスケット部	123,100	146,960
バレー部	49,218	50,200
水泳部	67,720	64,840
執行部	58,400	91,300
特別費	55,516	120,000

中一再び三百人に

授業料確保のため

来年度

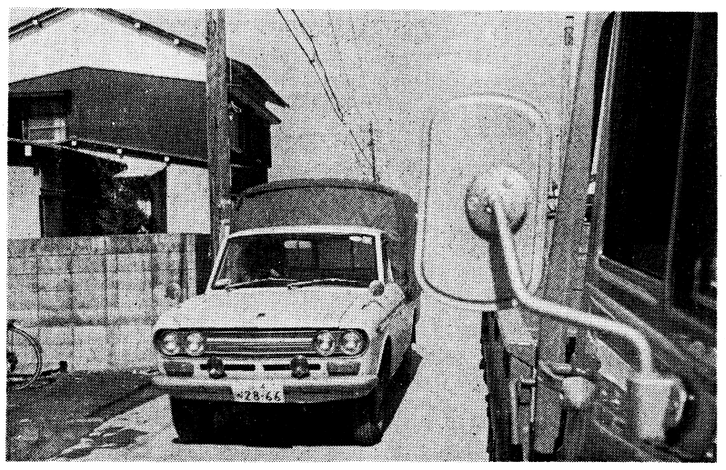
昨年十二月七日、理事会で来年度中一生徒数の六十名増員が正式決定された。

これは、昨年六十名減らして二百四十名にしたものを、今年再び六十名増員し、三百名にしたものであるとして西野先生は、文化祭の時行なった新聞部座談会において、「今回六十名増加することにより、授業料値上げ幅をある程度おさえることができた」と発言された。

また、本年の中一定員数が六十名減らされた理由として次の二つがあげられる。①新校舎建築のメドが一昨年までにすでについているはずだったが、予想以上に難航した。②高一編入生のためその時点で三年間に増加する百八十名の生徒のため、プレハブ仮校舎が建築された。しかし、暑さが激しいプレハブ教室は不評をかった。そのためプレハブ教室に入っていたクラスは、書道室、技術室などへ移転し結局プレハブ校舎は失敗に終った。このため学校の生徒収容能力が限界となり、中一定員を減さざるを得なくなった。なお、この時授業料値上げが発表された。そして来年度は定員増加と授業料値上げが行なわれる。

この一連の動きを見ると、学校側の見通しの甘さが少なからず生徒数の増減や授業料値上げにつながっているとみられる。

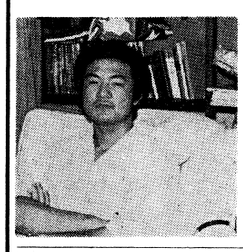
また、今度の増員によって起こる弊害も少なくない。最も大きな問題として、校舎の第二期工事が始まると、それでなくても苦しい教室確保にさらに輪をかけることから授業料値上げの要求があげられる。「学校側としても新校舎建築のため、経営上苦しい時だができれば第二期工事が終ってから増員すべきではなかったか」そういう声が聞かれる。



柔道部　二月十四日、県警察学校道場に県下十九校約百選手を集めて、県高校柔道新人戦が開かれ竹林君（二N）が優勝した。

竹林君（柔道）が優勝

各部新人戦を行なう



二月四日、五時限目の体育の時間に新グラを出発しマラソンコースを走っていた、二Kの岩田理道君と有田憲二君の二人は、対向車と接触し、岩田君は足の骨を二本折って全治二ケ月の重傷、有田君も軽傷を負った。このような事故は以前にも発生している。本校における災害の発生件数は意外に多い。日本安全会高知県支部発行の「学校安全」第十二号によると土佐高の災害発生率は、年平均八・八パーセントで高知市内の高校の中でも二番目に高いことが報告されている。又一人当りの給付額も三九・四円と県下で三番目に多い。災害発生の構成は多い順に休息時間中・体育時間中・放課後・撮除中・下校中。体育の授業中での発生は、足、足指高節捻挫、捻傷、前腕骨折、手指関節捻挫打撲の順となっている。

上―岩田君が車と接触した所、新グラからとび出したとたん北から来た車と接触した。左―中央病院に入院して、治療を受ける岩田君。

多い校内の事故発生

二K岩田君も重傷

このような事故発生について、保健担当の浜口先生は次のように話した。

「原因はそのときどきによって違うだろうけれど、本校の生徒は概して、運動能力があまりよく身についていない。県体などでは事故はほとんど起こらないのに、体育の時間や、また特にクラスマッチのとき、事故が多発している。環境の悪さも一つの要因となるだろうが、やはり、お互いに注意し合うことが大切だと思う」

体制への反抗に生きる

闇の中の魑魅魍魎

【感想】

一口で言えばこの映画自体がずばり絵巻である。今にも画面から血のふき出そうな切腹シーン。雪の自殺や友人武田の殺陣シーンなど一カット一カットが絵巻の迫力、美しさ、生々しさを持って、絵巻そのものだ。画面がドクドクと鼓動している。この鼓動が僕の胸を打ちかけてくるようだった。

【物語】

絵師金蔵（暦赤児）はきちがい傲慢、不潔、変態という不名誉な陰口ばかりたたかれていた。

そこで恩師（岡田英次）母（稲野和子）は彼を御城絵師にするために江戸行きをすすめた。そして彼は徳姫（加賀まり子）の嫁籠かきとして修業のため江戸へ旅出つ

しかし江戸で金蔵の見たものは狩野派の堕落であった。狩野派は生きた美を失い、人工美のみに形をとどめていた。失望した金蔵は三年後土佐へ戻り、御城お抱え絵師となった。

そして徳姫より襖絵を描くようにと命令をうける。その時彼は女郎の雪を知った。雪との性に没入して、雪を四季の女のモデルとして襖絵を描く。

ある時母の素性が明るみに出される。母は息子の出世を考え、秘密を守るため自殺する。

金蔵は絶望の中から出ちあがる。しかしニセ絵という、歪んだ形の権力への挑戦になってしまう。ついに雪は、ニセ絵を銭のために書くなと言って死んでゆく。

彼は権力の世界、死んだ美の世界から追い出されてしまう。そこで彼の見つけたものは、民衆（農漁民）のエネルギーと、生きた絵の世界であった。

【解説】

この映画は「狙われた男」「狂った果実」などの中平康が、中平プロダクションを創立しての初作品です。

製作・監督を中平康、脚本を「裸の十九才」の新藤兼人、音楽には黛敏郎がそれぞれ担当している。

主役に状況劇場（唐十郎）の暦赤児が抜擢され、他に岡田英次、殿山泰司、扇ひろ子などが出演している。

中平監督は、香美郡赤岡町に撮影基地をおき、高知県下の協力を仰ぎ十月十五日にクランクインした。そして十一月いっぱいオールロケが行なわれた。

【物語】

絵師金蔵（暦赤児）はきちがい傲慢、不潔、変態という不名誉な陰口ばかりたたかれていた。

そこで恩師（岡田英次）母（稲野和子）は彼を御城絵師にするために江戸行きをすすめた。そして彼は徳姫（加賀まり

【感想】

一口で言えばこの映画自体がずばり絵巻である。今にも画面から血のふき出そうな切腹シーン。雪の自殺や友人武田の殺陣シーンなど一カット一カットが絵巻の迫力、美しさ、生々しさを持って、絵巻そのものだ。画面がドクドクと鼓動している。この鼓動が僕の胸を打ちかけてくるようだった。

【物語】

絵師金蔵（暦赤児）はきちがい傲慢、不潔、変態という不名誉な陰口ばかりたたかれていた。

そこで恩師（岡田英次）母（稲野和子）は彼を御城絵師にするために江戸行きをすすめた。そして彼は徳姫（加賀まり子）の嫁籠かきとして修業のため江戸へ旅出つ

しかし江戸で金蔵の見たものは狩野派の堕落であった。狩野派は生きた美を失い、人工美のみに形をとどめていた。失望した金蔵は三年後土佐へ戻り、御城お抱え絵師となった。

そして徳姫より襖絵を描くようにと命令をうける。その時彼は女郎の雪を知った。雪との性に没入して、雪を四季の女のモデルとして襖絵を描く。

ある時母の素性が明るみに出される。母は息子の出世を考え、秘密を守るため自殺する。

金蔵は絶望の中から出ちあがる。しかしニセ絵という、歪んだ形の権力への挑戦になってしまう。ついに雪は、ニセ絵を銭のために書くなと言って死んでゆく。

彼は権力の世界、死んだ美の世界から追い出されてしまう。そこで彼の見つけたものは、民衆（農漁民）のエネルギーと、生きた絵の世界であった。

【感想】

一口で言えばこの映画自体がずばり絵巻である。今にも画面から血のふき出そうな切腹シーン。雪の自殺や友人武田の殺陣シーンなど一カット一カットが絵巻の迫力、美しさ、生々しさを持って、絵巻そのものだ。画面がドクドクと鼓動している。この鼓動が僕の胸を打ちかけてくるようだった。

向陽後記

季節はずれにはなるが、修学旅行。愉快な話が多かった。

高知県人はその独特の方言もあって、コトバに注意しなくはならない。小諸での話だが、観光客でいっぱいの中、土佐ベンをコイに使いたがるヤカラがいる。先頭に向かって大声で、「そんなに急ぐなや、あとでゾウモムぞ」。このコトバは語感もあることながらまさか象をもむなんて連想されたのでは？とはずかしいやら、心配やらで…。とその直後、他の男、先のヤカラに優るとも劣らぬ大声で叫んだ。「妙な方言使うなや。ソウクソ、ワルイやか」これにはまいった。象くそが悪いとは、はて？

さて今号は特集に文化祭、授業料値上げを取りあげた。文化祭があり、作製期間が短かかったのですが、一生懸命やりました。

それにしても部員が中・高あわせても十人。少しさびしいという噂もチラホラです。骨のある男（女でも可）来たれ。人間誰でも骨はあるもんだっけ……。

皆様の――帽子の店
土佐中高指定
元田帽子店
高知市帯屋町二丁目南側
TEL ㉒ 二五九一

古本誠実購入
井上書店
定休日　毎週月曜日
高知市帯屋町2の72
TEL ㉒ 3921

あらゆる万年筆
万年筆は
白亞堂
帯屋町東宝会館西　TEL ㉒ 2473

各種画材
額縁
水谷龍文堂　TEL ㉒ 0067
高知市帯屋町54（大劇東）

すばらしい音楽の
トクヒロ・レコード店
高知・新京橋・大丸北口西
TEL ㉓ 2050

昨年を遙かに上廻るペースで続々合格中！
3月5日現在すでに 合格110名突破！（早慶等有名私大国公立大の発表が大いに期待されます）
同志社16立命10関大7関学6立教4他多数!
（ ）内は昨年最終合格数　（9）（ ）（10）（3）（2）
昨年開設初年度実績
東大・京大・阪大・名大・東北大等有名国公立大50名合格！
医学部12名合格（国公立大8名 私立大4名）（予備校第1回生130余名のあげた成果としては驚異的なものと信じます）
早慶上智東京理同志社等有名私立大に150余名合格！
現役で合格するために
高校補習科高1・2
大学受験科（夜間）高3
で勉強しよう！
レベルが違う本格派！
公認 土佐塾予備校
高知市山田町西詰高知橋南東50㍍電㉜9676

紳士服装専門店
お誂紳士服
高級既制服
男子専科…ヤングマンコーナー
＜土佐高制服オーバー指定店＞
廣松屋
大丸北口前　TEL ㉒ 2338, 2339